（別紙４－１）（ユニット1）

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0193600053		
法人名	株式会社　二千翔		
事業所名	グループホーム　ほたる		
所在地	苫小牧市拓勇西町4丁目19－27		
自己評価作成日	令和5年3月3日	評価結果市町村受理日	令和5年5月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600053-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和5年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

理念『ありがとう　言われるよりも伝えたい』
人生の先輩である入居者の方たちに、敬意をもって日々『ありがとう』と、感謝を伝えられるような支援を目指しています。コロナ禍で面会制限中ですが、少しでも顔を見て安心できるよう、感染対策を行っています。いつでも足を運びやすいように、毎月のほたる通信に、近況報告の写真やお手紙を同封し、都度電話などで全職員がご家族様との関係づくりに努めています。どんな状況になろうと、ここを≪終の棲家≫として、ご家族様と一緒に看取りまで安心して暮らせるように、全職員が理念をもとに取り組んでいます。ご家族様にとって実家のような心地よさを退去後までも感じていただけるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

グループホームほたるは、平成18年に沼ノ端地区の住宅街に開設しました。広い庭や畑がある事業所の周辺には小学校や保育園、目の前に大きな公園があり、子供たちの声を耳にして自然と触れ合える環境です。今年度は職員体制を整えながら、折に触れ理念や認知症の理解、グループホームの役割などを確認し、認知症ケアの専門家チームとして「ほたる」の有るべき基本姿勢の共有を重ねています。明るい居間は、利用者の安全と過ごしやすい環境を作り、テラスから季節の移ろいを取り込み、室内は華美にならない装飾です。利用者の日常は、本人の力を引き出す関わりを中心に自由な生活を支え、利用者は好きな場所で好きな事をして過ごし、誕生会にはお洒落をして参加、季節行事や寿司ランチ会、ピザパーティーなど、コロナ禍での自粛を払拭できるよう室内行事や食の充実を工夫しています。家族の心情を受けとめ、毎月の通信や手紙で詳細に近況報告をし、電話や面会も柔軟に対応しています。医療連携体制の下、日常の健康管理や終末期の支援体制があります。入職後に介護資格を取得する職員も多く、ほぼ全職員が介護福祉士の資格を有しています。管理者はじめ職員は、現状に留まることなく地道な努力でその時々の課題に向きあい、今後の地域交流や外出活動に向け、一歩づつ歩みを進めています。

Ⅴ　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

	項　目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる（参考項目：23、24、25）		1　ほぼ全ての利用者の
		○	2　利用者の2/3くらいの
			3　利用者の1/3くらいの
			4　ほとんどつかんでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18、38）		1　毎日ある
		○	2　数日に1回程度ある
			3　たまにある
			4　ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36、37）		1　ほぼ全ての利用者が
		○	2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
		○	4　ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30、31）	○	1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない

	項　目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9、10、19）		1　ほぼ全ての家族と
		○	2　家族の2/3くらいと
			3　家族の1/3くらいと
			4　ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2、20）		1　ほぼ毎日のように
			2　数日に1回程度
		○	3　たまに
			4　ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1　大いに増えている
			2　少しずつ増えている
		○	3　あまり増えていない
			4　全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11、12）		1　ほぼ全ての職員が
		○	2　職員の2/3くらいが
			3　職員の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1　ほぼ全ての利用者が
		○	2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1　ほぼ全ての家族等が
		○	2　家族等の2/3くらいが
			3　家族等の1/3くらいが
			4　ほとんどできていない

（別紙４－１）（ユニット１）

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に設置し、職員間で共有し、実践に努めている	事業所内に理念を掲示し、パンフレットや家族に届ける書類等で随時理念の発信をし、事業所の目指す姿勢を示しています。今年度は、会議等で都度話題に取り上げ、理念の再確認を通して全職員が基本に立ち戻り、チームケアの充実に歩調合わせをしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナ禍のため中止しているが近隣の小・中学校、保育園の授業の受け入れを行っている	地域交流の自粛は継続していますが、近隣2小学校での認知症啓発活動の実施や中学生の職場体験を受け入れています。隣接の保育園児から恒例の敬老の日プレゼントがあり、近隣から除雪手伝いやおむつの寄付を受けるなど、事業所として関わりを持っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、近隣の小学校に出向き、認知症キッズサポーター養成講座を開いている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前はご家族も参加していただき開催していたが、コロナ禍のため現在は書類にて報告している	前回の課題を踏まえ、定期的に事業所内会議を行い、推進委員や全家族に書面で報告しています。定例報告のほか、事故等の報告やコロナ感染症対策、身体拘束適正化についてなど分かりやすく記載して情報を発信しています。	9月の書面報告にアンケート用紙を添えて配布し意見の吸い上げに努めています。参集会議への移行後も、毎回の報告内容に対し、多くの意見や助言の促しを行い、運営への反映を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍のため難しいところはあるが、今まで築けていた関係が途切れないように努めている	行政とは、運営面は法人代表や施設長、利用者に係る案件は管理者対応とそれぞれ分担し、報告や情報交換、必要に応じて窓口を訪問しています。直近では、困難事例に対し成年後見制度活用の助言を受け対応を進める方針です。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠せず、定期的に身体拘束廃止推進委員会を開き、拘束の無いケアに取り組んでいる	指針の下、定期的に身体拘束廃止委員会と勉強会を実施しています。排泄における自立支援の検討を重ね、三原則に則ったベルト使用については家族の同意、委員会で検討確認、ケアプランの記載などで慎重に行っています。勉強会では認知症の理解やグループホームの特性、スピーチロックなどを取り上げ、また虐待や身体拘束に係る自己チェック表を活用し、全体で理解を深めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	カンファレンス・ミーティングだけでなく、日々の話し合いの中で理解を深め防止に努めている		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	なかなか機会は持てていないが、今後時間を作っていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に不安や疑問等、ゆっくり聞き取り、十分な説明をさせていただいた後契約している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ほたる通信送付時の手紙や電話、面会時など、意見・要望が言いやすいような関係づくりに努めている	家族の運営等への意見は多くありませんが、電話連絡などでは家族の気持ちや意見の聞き取りに努めています。毎月の通信や写真、担当職員からの近況報告でも利用者の様子をしらせ、何でも言いやすいよう対話を重ねています。家族の心情を受けとめ、終末期の利用者との面会は柔軟に支援しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどで話し合い、職員が働きやすいように努めている	職員からの意見や提案は日常的にあり、ケアサービスや業務の改善に活かしています。外部研修はリモート研修に代え、看取りケアやケアプラン作成など、現状支援に直結して学びを深めています。代表者は都度事業所を訪れ、職員との対話や管理者の報告から就労環境の整備に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティングで話し合い、負担が軽減できるよう環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リモートの研修に参加し、内部で勉強会を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	コロナ禍のため交流できていない		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個人とのコミュニケーションを大切にし、その時々での不安の解消に努めている		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月の手紙や電話を使い、不安や要望を聞きながら共に支えていく関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新しい場所での生活の不安を受け止め、その時々で何が必要かを話し合い、柔軟に対応できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今の思いやできることを支え、共に暮らす者同士、信頼関係が築けるように努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の通信や手紙、電話での報告でともに支えあう者同士、なじみの関係ができるよう努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会制限はあるが、窓越しの面会や通信支援等で途切れてしまわないよう努めている	家族や親戚の面会、職員同行で帰宅願望を叶え、家族付き添いで受診など、感染症対策を講じながら、現状で可能な対応により関係継続に努めています。代表者による訪問理美容も顔馴染みであり、昔話や親しい人の話を引き出すことで、記憶の想起につなげています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や相性を把握し、良い関係が築けるよう支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実家のように考えていただき、また会いたい、話したいと思っていただけるよう、いつでも相談に乗れるよう努めている		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションをしっかりと取り、今現在必要な支援は何か、職員で話し合い実践している	関わりの中からの言葉、二者択一で選んでもらう、表情やうなずき、仕草などから、好き、嫌い、意向や希望など、本人の変化も捉えた把握に努めています。家族情報も加え、本人の視点で検討しています。把握した内容は必ず全職員共有とし、アセスメントに加筆しています。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、前ケアマネージャーからの聞き取りやフェイスシート等を参考に職員で共有し把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス提供記録に個別に記載し、職員で共有し把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々にモニタリングを行い、毎月のカンファレンスで意見交換を行い、一人ひとりに適した介護計画を作成している	介護計画の見直し前に、本人と家族の意向を聞き取り、医療関係者の意見を交え、全職員が計画作成に携わり、現状を支える計画を立案をしています。計画は自立支援を主眼とし、日々のサービス提供の中で理念の実践につなげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス提供記録・支援経過記録で情報を共有しながら、日々の実践、プランの変更を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々、偏らない柔軟性を持った支援を心掛けている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のためできていないことも多いが、楽しんでいただけるよう出前や貸し出しを利用し、工夫している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医（月1～2回）の往診や定期的な訪問看護で対応している。また、必要に応じて他の病院も受診できるよう支援している	希望のかかりつけ医の継続支援も可能ですが、現在は全利用者が協力医療機関による月1～2回の訪問診療を受け、専門科受診は家族を基本に事業所も協力しています。週1回の歯科医による口腔ケアでは、誤嚥対策の指導も受けています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の定期訪問や、緊急時には24時間対応で相談、指示を受ける体制ができている		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先と情報交換を行い、主治医・訪問看護と連携し、早期退院に向けての関係づくりを行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時より本人・家族と話し合い、要望に沿ったケアを主治医・訪問看護と共有し、支援できるよう努めている	重度化や看取りの支援に関する指針の下、契約時や状態変化の都度、また、重篤時では医師や看護師を交えて話し合いの場を設けています。職員は看取りケアの研鑽を積んでいます。看取り支援の実践経験が多く、医療関係者と連携し、利用者、家族の希望に寄り添えるよう支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に、スタッフ全員が対応できるよう避難訓練以外にも話し合いをしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回行っており、全職員が参加し、避難方法は身についている	令和4年9月、消防署立会いにより避難誘導と水消火器の使用訓練、5年3月は自主避難訓練を行い、いずれも利用者参加で夜間を想定し実施しています。発電機の使用方法や非常用備蓄品の確認と補充をしています。自然災害における訓練が滞っています。	地震や噴火など、当地で想定される自然災害の訓練、また、入浴時や排泄介助時等、日常の様々な場面を想定した訓練など、非常時に速やかに対応できるよう、その取り組みを期待します。
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々を尊重し、プライベートに配慮した支援を行うよう、相手の方に伝わりやすい声かけをするよう努めている	排泄時の声かけや、申し送り時に職員以外に利用者が特定されない配慮、個人記録の保管場所など、利用者の人格が尊重された生活が保たれるよう環境整備に努めています。管理者は業務の中で職員の接遇面に注意し、意識啓発を図っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しかけやすい環境で、思いを伝えやすい関係性を築き、混乱してしまわないような選択肢を提供している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人ひとりのペースを把握し、自由に過ごせるよう、都度希望を聞き対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みを把握し、一緒に選ぶ楽しさを伝えられるよう努めている		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍で食事は一緒にできていない。個々の好き嫌いを把握し、形態にも気を付けて提供し、片付けも楽しみながらできるよう支援している	業者の一汁三菜の献立と食材を使用し、時には畑の野菜や家族の差しれを取り入れ、家庭の味や旬の食材で食欲がわくようにしています。一緒におやつ作りをし、誕生日は好きな料理とケーキ、味を選ぶラーメン、テイクアウトや取り寄せの豪華ランチなど、目先の変化で食の充実の工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの持病も把握し、サービス提供記録に記載し、職員全員で共有できている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の指導を受けながら行っている。自立の方は声かけのみでなく、なるべく自分で行えるように支援している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツの必要な方には、職員でどんなものが本人にとって使いやすいか話し合い、その結果を把握し自立支援につなげている	トイレでの排泄を重視し、羞恥心に配慮し、一人ひとりに応じてスムーズに排泄できる環境作りや支援方法を検討しています。本人に過度な負担が掛かる場合はベッド上で支援しています。衛生用品の使用は状況を見極め変更し、退院後にテープ止めおむつから解放された利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼るだけでなく、何が自力排便につながったのか記録し共有している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	本人のタイミングに合わせいつでも入浴できるよう支援している。拒否のある方にも、入浴を楽しめるよう声かけし配慮している	個々に週2～3回の入浴は一人ひとりの希望を受け、同性介助やお湯の温度などに配慮しています。拒否が強い場合も無理強いせず、入浴につながるまで根気よく対応を工夫しています。1対1となる浴室は話しやすい環境であり、表現された言葉はより良いケアに活かしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣に合わせ、時間に縛られることの無いよう、安心して休息できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情は個別に保管してあり、職員はそれを把握できている。変化があれば訪問看護に相談し、医師に伝わるようになっている		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴、性格を把握し、季節を感じながら楽しんでいただけるよう努力している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍での制限がなくなれば、また以前のように、買い物だけでなく外出・外泊など家族で過ごせる時間を作っていきたい	今年度は、感染症対策や職員配置上、以前のような外出支援はできていません。畑の野菜の収穫や玄関先の自販機でジュースを買ったり、近くのコンビニで買い物、家族との受診外出程度ですが、意識してテラスやベランダで外気に触れる場面を作っています。	コロナ感染症が収束方向にあり、向かいの大きな公園で花見見物や事業所周辺を散歩するなど、戸外に出る機会作りを目指していますので、その実行を期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在外出できていないため、希望を聞きスタッフが代行している。お金を預かるのではなく、品物を渡し、本人が支払う形をとっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、電話、携帯を使用し、いつでも連絡することができ、大切な方と途切れないように努めている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち、安全に移動できるよう整え、季節を感じていただけるよう飾りつけにも工夫している	共用空間は、利用者が居心地よく安全な生活環境を念頭に家具を設置しています。車椅子動線に配慮し、陽光の眩しさは利用者にカーテンで調整してもらうなど、共に過ごしやすい居間作りをしています。装飾は家庭的で、且つ華美にならないようにし、数卓のテーブルはテラス向きで感染症対策と同時に季節を楽しめるように配置しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士が楽しんで過ごせるよう、レイアウトにはかなり気を配っている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみのある使い慣れたものを置かせていただき、家族の写真を飾り寂しさを感じないよう努めている	スッキリ整理された居室が落ち着いて生活できる人、馴染みの物に囲まれ安心できる人と、本人の暮らし方や状態に応じて支援しています。仏壇や家族写真、縫いぐるみ、鉢植え、化粧道具やおしゃれ着も持参し、その人らしく生活できる品々を持ち込んでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりやすく掲示することで、誰かに聞かなくても動けるよう、また安全に動けるような動線の確保など配慮している		